アシュラム ASHRAM

2022. 2月第639号

発行所　アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編　集　アシュラム誌編集委員会

振　替　01050-6-53772
アシュラムセンター

印　刷　明文舎印刷商事（株）

解　題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

瞑想

怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。

エフェソ4：26

主幹牧師　榎本　恵

ドイツの神学者であり、戦時下ナチスに抵抗し、処刑されたボンヘッファーは、1933年ロンドンで牧会をしていた頃、インドのガンジーのもとへ行きたいと熱望していた（結局それは叶わなかったのだが）という。「彼がガンジーのもとを訪れることを切望したのも、東洋の宗教に対するエキゾチックな興味からというよりも、そこでの共同生活とその訓練のインド的な方法から何事かを学び彼の今後の仕事に役立てたいと願ったからにほかならない。」（「共に生きる生活」訳・森野善右衛門の解説より）。彼はイギリスから帰国した後、ドイツ告白教会の牧師研修所で若き牧師たちとの共同生活経験をもとにし「兄弟の家（ブルーダーハウス）」という福音的キリスト者共同体を設立した。そしてそれまでの経験と実践、そしてインド行きで目指した思想を背景として1938年に執筆されたのが、名著「共に生きる生活」である。

ボンヘッファーは、この本の中で、今月のローズンゲンの御言葉「怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません」（エフェソ4：26）を引用し、次のように書いている。「その1日に引き起こされた全ての仲違いは、夕方には癒されなければならないということは、すべてのキリスト者の交わりの決定的な規則である」とし、怒りの感情のまま、床につくことは、危険なことであり、夕べの祈りにおいて、和解と新しい交わりを求め、互いに許し愛の祈りをすることの大切さを説く。確かに、どんな聖なる修道院、教会、集会、また家族同士であろうと、キリスト者の共同体において、わだかまりと誤解、そしてそれによって引き起こされる怒りや嫉妬、また様々な感情に支配されてしまうことは、避けては通れないものである。人間関係に悩み、悶々と眠れぬ夜を過ごしたことや怒りの感情がどうにも治まり切らず、気がつけば朝を迎えてしまったという人もおられるに違いない。しかし、このキリスト者共同体の決定的規則、赦すこと、和解すること、そして怒りを鎮めること、これらのことほど難しいことはない。確かにそれはボンヘッファーの言う通りではあるけれど、人の心というものは、そううまくは運ばない。しかし、それでもなお聖書は私たちに、新しくされた者として、新しく生きよと迫ってくるのだ。

ところで、この怒りのことを黙想するとき、旧約聖書の預言者ヨナのことを私は思い起こす。神に向かい二度も怒るヨナ。彼ほど、人間臭い預言者はいないのではないか。1度目は、「ニネベの町は40日で滅びる」と触れて回ったにもかかわらず、彼らが悔い改めたとたん、神が彼らを赦してしまわれたことに怒り、次にその後、彼の暑さを凌いでくれたとうごまの木が、翌朝には枯れてしまったことに怒るのだ。ところが、その怒り狂うヨナに、神は2度こう問う。「お前は怒るが、それは正しいことか」（4：4、9）と。

ヨナの怒り、それは自分を正当化する怒りであった。ニネベが自分の予言通りに滅びないことに、また自分に日陰を与える木が枯れたことに。自分、自分、自分。そこには、救いを求めるニネベの町も、同じように暑さに苦しむニネベの人も見えていない。神は、そんなヨナにこう言うのだ。「お前は、自分で苦労することも育てることもなく、一夜にして生じ、一夜にして滅びたこのとうごまの木さえ惜しんでいる。それならば、どうしてわたしが、この大いなる都ニネベを惜しまずにいられるだろうか、そこには、12万人以上の右も左もわきまえぬ人間と、無数の家畜がいるのだから」（ヨナ4：11）。

友よ、聖書は怒ることを決して否定はしていない。ただそれを日が暮れるまで続けてはならないと言うのだ。だから夜、静かに落ち着いて祈る時を持とうよ。その怒りは本当に正しいものなのか、それが自分だけの正しさに過ぎないものなのかどうか、主の声に聴こうよ。

喜んでください

アシュラム誌 第45号（1971年10月）榎本 保郎

第5回今治アシュラムに私の父と母とが出席しました。母は私たち（兄弟7人中4人が伝道者、2人が信徒）のススメで2年程前から求道しておりましたが、父は熱心な神道の信者（父のもとに150名程の信者が毎月集っている）である関係で、キリスト教の話は喜んで聞いてはいましたが、求道していませんでした。その2人がアシュラムに出席し、3日間主にある兄姉方の祈りと愛の交わりの中に入れられ、2日目の夜、立証の時間にはこれから求道生活を始めたいとの決意を語ってくれました。因習の強い田舎で、しかも多くの信仰の同志を持っている父母が果たしてこのところで決意したことを実行出来るだろうか。私は不安でありました。

やがて弟から私たちのところに「我が家に大事件が起きた」と知らせて来ました。それは父と母とがアシュラムから帰ってから早天祈祷会を始めたと云うのです。其の後、故郷の教会の牧師より両親が揃って礼拝に出席したとの知らせがありました。そして此の間母から電話があり、早天祈祷の様子をこまごまと知らせて来、今聖書を覚えるために写経（?）しているとのことでした。私は本当に嬉しかったです。アシュラムに参加された方々が一生懸命に祈ってくださったおかげだと思い、私事を記すことを恐縮しながら敢えて記させていただきました。

どうかみなさん喜んでください。そして一日も早く洗礼を受けることができるよう祈ってください。

榎本ためゑ母

今治教会にて、懐かしい方々と。
右から3人目、通父。
（抱かれているのは、恵師、てる子師）

今年初の早天の祈り

榎本　和子

天の父なる神さま、多くの方々とともに早天の恵みに預かることができてありがとうございます。どんなに信仰を積んでいても、悪魔は虎視眈々とその人の信仰生活を見ているということをこの一年間思いました。そして、必要な働きかけに勝利するものは何か、キリストの愛であるということを思いつつ…

また、ただ黙して神の助けを待つ、そのことを思いつつ、今日この早天に出席させて頂きました。

どうぞ神さま、助けはいづかたより来たる！

あめつちを造りたまえる主から来たる！と。

神さまどうぞ主に望みをおいて、これからの一年を歩んでいくことができますようにお導き下さい。

尊い主、イエス様の御名を通して、感謝してお願いいたします。

（アシュラム センター主事）
（京都葵教会）

➡早天、ズーム参加の皆様との嬉しいお交わりの時

日光オリーブの里アシュラム 証しの時 ②

金山　良雄師

50年くらい前に、熱海で聖会がありまして、榎本保郎先生が私の隣に座ってらして、その時は、個人的には知らなかったんですが、お立ちになって、お証をされたんですよ。それが私も目を疑うようなお証でびっくり仰天しまして、私も罪を犯したものなので。

「恥は我がもの、誉は主のもの。」という言葉がありますが、先生は恥を曝け出し、涙を流し、ものすごく泣きましたよ。恥も名誉も地位も考えないで赤裸々に告白なさって、許して下さいと。その瞬間から榎本先生が好きになっちゃったんですね。

帰り、東京・品川までお戻りになる先生を私の車でお送りしました。とにかく先生は車内でずっと寝ておられました。困憊して疲れて大変だったんですね。

先生が風呂敷のような物を持ってホテルに入られる時、「キム君（私はまだ日本に帰化していなかったので）話しようか。」と。「先生、お疲れじゃないですか？」と聞くと大丈夫とのこと。そして、夜遅くまで食べたり飲んだり。その時、「キム君はすごい実業家になるよ。」と先生に予言されたこと、今でも忘れられません。そんな大物ではないんですが、今は従業員2千数百人、アクションスポーツ、スケートボード、スノーボード、サーフィン、3Sと言って、若者のスポーツですが、世界の〝ムラサキスポーツ〟となりました。今回のオリンピックで5人くらいがメダルを取ることができました。

私はいつも机の上にこの写真（保郎師の）を見ながら、「今あるは 神の 恵み」と、いつも先生を思い出しています。

（続く）

（・上野の森キリスト教会
・日光オリーブの里創設者
・ホームレス伝道支援）

アシュラム終了後、皆様をお見送り。東海村教会の加山師ご夫妻が、恵師をお迎えに。翌日の、初の東海村教会1日アシュラムのため。（水戸在住の小林佳子姉ご紹介により）

皆様からのお便り 感謝して ご紹介します

吉田　すみゑ

「心の貧しい人々は幸いである。天の国はその人たちのものである」　マタイ5：3

み言葉に目が開かれることはなんと有難いことでしょうか。インマヌエルの主は、憐れみ深く慈しみで守り、導いて下さることを2022年も信じます。

イザヤ43：19

私たち夫婦も土の器、弱さを覚えることが増えて来ました。でも落胆せず、主の栄光の望みに生かされる。主の平和

恵みに深く感謝しています。

「御父がどれほどわたしたちを愛して下さるか、考えなさい…」

御子が現れるとき、イエスさまに似た者になるということを知っています。

Ⅰヨハネ3：1～3

札幌アシュラム、祈りの家が主を深く知る場として用いていただきたく願い祈ります。アシュラムセンターを支えて下さるすべての上に祝福を賜りますように。また計画が主の御旨となりますようお祈りさせて頂きます。

（日本福音ルーテル札幌教会
札幌アシュラム事務局、祈りの家）

札幌ミニアシュラム、2年ぶり！皆様の喜びが伝わってきます！

リトリートアシュラム　3日目　プログラム

ラビリンスを歩いて

上内　鏡子

●1941年太平洋戦争から80年目のピースウォークとして、ラビリンスウォークを体験できて非常に平安を得た。

●まず、歩きながらずっと讃美歌21の「いかに幸いな人」（詩篇）の歌が私を包んでいた。不思議な体験だった。

●外で行うことの素晴らしさは、冷たい風を感じ、落ち葉が降り注ぎ、鳥が鳴く。そして正午のサイレンと小学校のチャイムが聞こえて、世界の一部に溶けていくような感じがした。

●中心では、おへそのような中心点の上にしっかり乗っていると大地の真ん中に立てたような気持ちになれた。大きなみ手に抱かれているような気持ち。

●アシュラムのラビリンスは、石を敷いているので、一つ一つ違っている。その上を歩くと、人生の一コマ一コマを踏みしめているようだった。そして、歩くうちに気づいたことは、真直な道は正方形の同じ石が敷かれていたが、180度曲がっているコーナーは、なんと色々な形の石や色々な大きさ、色々な種類の石が敷かれていた！順調と思われる道のりもあるが、人生の曲がりくねった道は、いろんな人や力に支えられて乗り越えるように思った。

●ラビリンスの途中、2つの大きな石があった。何か意味を込められたのかな？作った方に聞いてみたくなった。

●住宅地の中で行うことは初めてだった。周囲の人々はどのように感じておられるのか、聞いてみたいと思った。

（日本基督教団神戸イエス団教会牧師）（榎本てる子師同志）

12月8日夕。第11回合同平和祈祷会が、アシュラムセンターにて開催された。講師上内鏡子師。ラビリンスウォークの後に。

80年目の12月８日　ピースウォーク・ラビリンス。

So this is X 'mas , John and Yoko の Love and peace のおもいが この日は 心にひびきます。

Peace Walk 平和をのぞみます。今この時に たくさんの方々とラビリンスを歩けてうれしかったです。

War is Over If you want it. Give Peace a chance など 頭の中をよぎりながら、中心で青空の空、雲の合間から陽の光がさした事が、心に残りました。

このラビリンスの道が平和の道として、たくさんの人に歩いてもらえたらいいなと感じながら出ました。

きっと いろいろとまよっても ここにもどれるかな。There and Back Again.

宮本 肇（ラビリンス造りリーダー）
（庭師、版画家、ミュージシャンなど）

今回の講師、武田光世先生のご指導を仰ぎながらのラビリンス造り。青年2人と共に心こめられたものに。

宮本肇さん版画によるラビリンス

⬆初企画、教役者のためのリトリートアシュラム、12月６日～10日、いよいよ始まりました！礼拝後、芹野与幸師講演。

⬆初日の夕食は和田パッカモン姉によるタイ料理！アロイマー！（美味しい～！）

「早天祈祷会でバースデーカードをありがとうございました。以前ファミリーになった方々の名前もあり、なつかしかったです。」

村主 由美（愛知県）

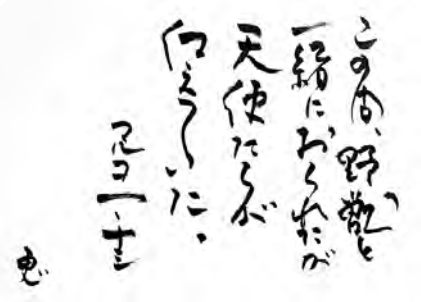
主幹牧師の2021年度の振り返りと2022年ビジョン(1)

あの若者のもとに走りよって告げよ。エルサレムは人と家畜に溢れ、城壁のない開かれた所となる。　ゼカリヤ2：8

手に測り縄を持った若者を追うのは、若者の行動を訂正するためである。若者は再建されるべきエルサレムを城壁に囲まれた町と考え、エルサレムの幅と長さを調べようとしたが、神の計画は人の計画とは異なっている。再建されるエルサレムは人が守る町ではなく、神が城壁となって守る町であり、神がその中で〈栄光〉となる町である。（新共同訳旧約聖書註解より）

2021年度の振り返り

2021年度のアシュラムセンターの働きを思うとき、冒頭に掲げたみ言葉とその註解書の言葉を思わずにはおれない。「神の計画は人の計画とは異なって」おり、聖なる地エルサレムは「人と家畜に溢れ、城壁のない開かれたところになる」（ゼカリヤ２：８）。この言葉は、真実である。新型コロナウイルスの蔓延により、2021年もまた、私たちの計画していた、多くのことは実現することができなかった。2020年の12月に、「シメオン黙想の家」の完成感謝会を催した後、全国的な緊急事態宣言の発出により、第46回の年頭アシュラムはZoomによる開催とせざるを得なかった。そのために、常任運営員の新しい招きは行われず、暫定的に一年間の任期延長をお願いするという結果になった。また、秋に新潟で開催予定であった「第18回国際正義平和アシュラム」も早々と中止が決定された。（続く）



2022年恵師の書。
寅年に通じるみ言葉より、皆様に。

⬆11月修道場アシュラム中の聖書教室にて。ご奉仕は島隆三師。京都葵教会より、和子母の友もご参加。

⬆蕎麦打ち職人現る！池谷治朗兄の御父？続きは次号で。

⬆用いられ始めている、シメオン黙想の家、楽しく花植え。（花は後宮松代姉からの贈り物）

あとがき

新しい年が始まり、はや一月が経とうとしている。残念ながら、今年の第47回の年頭アシュラムも、規模を縮小して行うこととなった。なんとか、コロナを恐れず、神だけを畏れ行きたいと願いながらも、現実はこの疫病の感染拡大の前になすすべがない。なんだか、泣き言ばかりのようだが、しかし、このような中でも、アシュラムセンターの今年度のビジョンが示された。特に、７月には、例年行っている「天上の友を憶える日礼拝」を、榎本保郎牧師召天45周年と合わせ行う計画を立てている。私たちが、先達たちを思い起こすのは、ただ単に追悼の意味だけではない。そうではなく、先達たちの残していかれたものを、私たちが受け継ぎ、この時代の中で、その思いを活かしていく、それがこの礼拝の持つ大事な意味である。

かつて、ドイツの片田舎の「オーバーアマガウ」の村人たちは、ペストの感染拡大を前に、祈り、この疫病が終わったなら、この村総出で、キリストの受難劇を行うと誓った。それが今日世界中から旅行者が集まる一大イベントとなったのだ。私たちも、大きなビジョンを持とう。（恵）

「イエスは　主なり！　毎朝　お祈りしております。」　七野 栄子（奈良県）

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり！

２月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】
0748 － 33 － 4030
アシュラムセンター

1㈫	Zoom聖書教室（AM10:30、PM7:30）
4㈮	阪神ミニアシュラム（**神戸聖愛教会** PM1:00）　**2月より、会場変更し再開！**
12㈯	広野祈りの家（兵庫県三木市志染 猪瀬和子姉宅 PM1:00）
12㈯	聖書と学ぶ会（Zoom PM8:00）
14㈪	福岡聖書教室（博多クリオコートホテル PM1:30）
15㈫	大阪聖書教室（大阪クリスチャンセンター AM10:30）
16㈬	カフェちいろば聖書入門講座（京都・伏見区深草 PM1:30）
18㈮	センター聖書教室（アシュラムセンター AM11:00）
20㈰	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝（PM5:00）
21㈪	箴言に学ぶ会（Zoom AM10:30、PM7:30）
22㈫	東京聖書教室（御茶ノ水クリスチャンセンター４F AM10:30）
23㈬	美しい足の会（Zoom AM10:30、PM7:30）
26㈯	加古川祈りの家（小林清子姉宅 PM1:00）
28㈪	静岡聖書教室（旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30）
3/1㈫	Zoom聖書教室（AM10:30、PM7:30）
3/4㈮	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）

２月のアシュラムなど

17㈭～19㈯	2022年 修道場アシュラム① （アンナ祈りの家、シメオン黙想の家） 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター

３月以降のアシュラム予定

３月17㈭～19㈯	2022年 修道場アシュラム②
４月21㈭～23㈯	2022年 修道場アシュラム③
５月13㈮～14㈯	第7回北陸金沢アシュラム
５月19㈭～21㈯	2022年 修道場アシュラム④

ご参加お待ちしています！（詳細はホームページにて）

- **Zoom 聖書教室**
  （聖書と学ぶ会、箴言に学ぶ会、美しい足の会 含む）
- **修道場アシュラム第Ⅲ期**
  ２月～６月（各月 第３木～土）

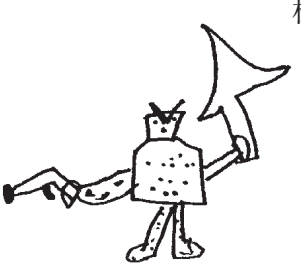
アシュラムセンター
玄関はもう春

**皆様のお祈り、お支えに
感謝いたします。
2022年も、日々主が共に！
皆様と共に！
アシュラムセンター一同**

（アシュラム誌 発送遅れお詫び申し上げます）

みことば

ノースカロライナ大学院生
Zoom聖書と学ぶ会
榎本　空



ソラの〝くるみ劇場〟出演者 ホクロマン
空・画（６才時）

**わたしの口は賛美に満ち、絶えることなく
あなたの輝きをたたえます。詩篇71・８**

この詩にふれたとき、子どもがおやつをせがむ姿をふと思い出した。何か欲しいおやつがあるとき、自分が食べたいと直接は言わず、どこか他人のことを見るように、ここにおやつがあると春ちゃん食べたくなっちゃうかもしれないよ、と言う娘の姿を。

この詩人も同じように、どこか他人のようにして自分の口を眺めている。賛美をするのはわたしではなくわたしの口であり、主をたたえているのは、わたしではなくわたしの口であると。そう考えてみると、もしかしたら、この言葉の背後に隠れているのは、人間の状況のいかんに関わらず、絶えることなく神の輝きをたたえる「わたしの口」に対する畏怖を伴った、驚きなのかもしれない。賛美の言葉が勝手に口を伝い、それに合わせて手足が動き始める。そんな自分ではコントロールできない口や手足と出会うということが、神と出会うことの醍醐味なのではないか。

わたしが翻訳したコーン先生の本、『誰にも言わないと言ったけれど』は霊歌のタイトルだが、その歌はこう続く。誰にも言わないと言ったけれど、言わずにはいられない！

（次号につづく）